

タイ・カセサート大学 インターンシップ座談会

2019年2月23日(土)～3月19日(火)の計25日間（本科5年は12日(火)の計18日間）、学術交流協定校であるタイ・カセサート大学学生インターンシップ派遣が行われました。その参加者4名で座談会を行いました。

電子・生産
システム工学専攻1年
沖 駿吾

環境システム
工学専攻1年
斎藤大志

電子・生産
システム工学専攻2年
石山柊斗

電子・生産
システム工学専攻2年
金澤豊世

聞き手
有馬隆司
准教授



今回、インターンシップに参加しようと思ったのはなぜ？

金澤…今まで、ニージーランドEIT・香港THEE研修という「英語を使う」ことに重点をおいた研修に参加したので、今回のインターンシップは、使うことを前提として、自分の専門分野を英語で話す機会を持てることから、自分のスキルアップにつながると思い応募しました。

石山…香港THEE研修にも参加していて、単純にタイも行ってみたいと思いました。研究もするというのに多少不安もあったけど、チャレンジしてみたいと思って応募しました。

沖…研究ができるというのが一番の決め手です。

研究がどんな感じなのか、タイの電力事情とかを知って自分の研究に活かしてみたいと思いました。

斎藤…安く長い期間行けるっていうので興味を持って。ただの勉強だけではなく、研究ができるのも魅力でした。

インターンシップを振り返って特に印象に残っていることは？

金澤…暑かったことです。北海道は冬、タイはこれから夏になるという時期で温度差が40℃近くあって、タイの生活は刺激的でした。

石山…楽しかった。観光地も多くて、カセサート大学の学生がいろいろ連れて行ってくれた。

金澤…研究だけではなく、ほぼ毎日どこかしらに行つて、学生と交流してた。

れた。

金澤…タイ語をまったく知らなかったのが申し訳なかった。ちょっと覚えていたらコミュニケーションのスタートが円滑に進んだかな。

斎藤…学校内だと英語が通じるけど、タクシーやバスを利用する際は英語が通じなかった。

今だから話せる失敗談などはありますか？

斎藤…観光地でタクシーにぼったくられたことかな。

金澤…断る言葉を知らなかったのもあって、そういうのをうまく出来たらっていう後悔があったかな。相場を知ってたかな。

沖…虫刺され対策をしていなかったことかな。刺された箇所が日本に帰ってから数週間腫れていて。

金澤…お酒を飲みに行く機会が何度かあって、タイ料理もおいしくて、暑いのもあって喉も渇いて飲んでいたら、身動きがとれなくなって寮まで担いでもらったことかな。

インターンシップに参加して得たものは何ですか？

金澤…英語のコミュニケーション能力が向上した。LINEのやり取りを苦もなくできるようになった。お互いの出来事をLINEしあう仲間ができた。今までは翻訳を使って文を訳すレベルだったけど、見ないでも打てるようになったり、電話で会話できるようになった。

沖…一番印象に残っているのは、豆乳を飲み過ぎてお腹を壊したこと。豆乳って摂取量がある二定量を超えるとお腹を壊すのを知らなくて、おいしいってたくさん飲んでしまつて、4日間くらい寝込んでしまいました。

斎藤…軽い熱中症になって。お腹も壊して病院にも行つた。カセサート大学の学生がついて行ってくれて。

気温差は慣れた？

金澤…首都で冷房も付いているところが多かった。外も暑いのはわかってるから、多少慣れてきた。

石山…でもはじめはしていなかったから。嫌というわけでもなかった。

食事は？

金澤…安かった。独特の香辛料（レモン Gras）とかを多く入れられるときがあった。一番おいしかったのはカオマンガイ。パッタイも。

斎藤…辛かった。タイ風お好み焼きみたいなものもおいしかった。

研究面で印象に残ったのは？

金澤…PCを持っていることが大前提。ミクロシヨンの研究室だったが、自分のPCと学校の環境をネットワークで繋いで操作したり研究していた。基本、自分のPCで実験から報告まで行っていたことが印象に残っている。日本だったら、学校が用意することが多いけど、タイは自分で用意する。



石山…事前調査でPCのシミュレーションソフトMATLABを使っているとあったけど、大学に行ったら自分の持ってきたPCにMATLABが入っているかと言われて。僕たちは学校にあるPCにMATLABが入っているのを使っている。まず、MATLABを自分のPCにインストールすることからスタートした。

斎藤…苦小牧高専よりもつくったものを製品化するというのが結構具体的なところまで進んでいた。

金澤…企業との共同研究が多かった。大学の規模を利用して、企業と一緒にやっていた印象。産業的なものが多かった。結果がすぐ社会に貢献するような研究が比較的多かったかな。

なった。

石山…今回仲良くしてもらった学生の中に北海道に遊びにくる学生がいて、案内してあげるようになった。

沖…ニユーラルネットワークの研究をさせてもらつて、AIが使えることを実感した。

金澤…今回の研究テーマが、生態系と電気を組み合わせたようなもので、そういう研究にふれ合つて興味を持ったので、進学先を変更することにした。

インターンシップを考えている後輩へのアドバイスは？

金澤…英語をとにかく使うこと。日本人同士でも英語で話したり、SNSに英語でアップしたり、オンライン英会話とかで話してみる。自分の発音の悪さに気づかされるから。あと、自分の研究をちゃんと理解しておくことかな。自分の研究について話していて、予想外の方向から意見があった場合に会話に詰まったりしたので。

有馬先生から一言

短い期間だったけど、研究面でも英語のコミュニケーション面でも非常に充実していたようで、英語の壁を恐れず学生と仲良くなって楽しんでいたのが見ていてつらやましいな、と。今回、文化の違いであったり、英語のコミュニケーションであったり、研究の基礎の重要性を再認識したりと身を持って体験したと思うので、この経験を活かして欲しいな。後輩たちにも経験をぜひ伝えて、ひっぱりあげて欲しいな。